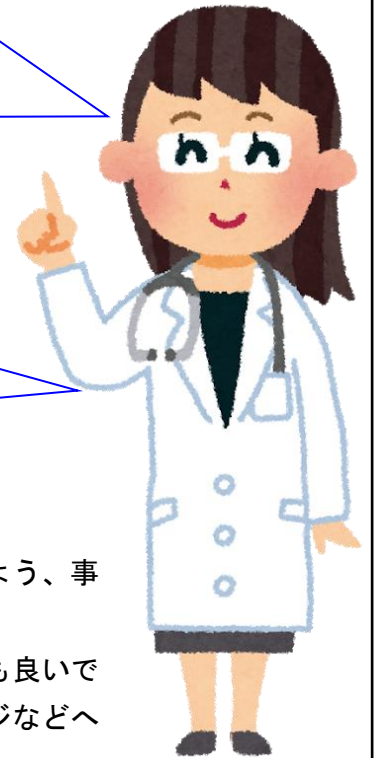


テーマ: 患者の上手な医療のかかり方



医師の負担軽減と言っても、余計なことをしているわけではないし…。
できることがあるのだろうか？

医師をはじめ、医療従事者が、努力している現在、無理をするのではなく、患者さんや地域の連携先などの関係者に協力してもらう事が大切です。医療機関が安心・安全な医療を提供することは、社会にとっても重要なことなのであります。



そのためには、病院としても全力を尽くしていることを示す必要があります。そのため、職員全員が働き方改革の当事者となって進めましょう！

★★ 負担軽減の具体策(例) ★★

- ◆ 診察時間短縮のため、患者には、受診の際に簡潔に症状を説明してもらえよう、事前にメモなどにまとめてきてもらいましょう。
- ◆ 検査結果の説明などを、原則として通常の診察時間内で行なうようにするのも良いでしょう。その場合、患者の理解と協力を得られるよう院内掲示やホームページなどへの掲載を行うようにしましょう。

- ◆ まず、かかりつけ医で受診して、紹介状を出してもらってから来院するよう促すことも大事です。かかりつけ医の紹介ならば予約できて待ち時間が少なくて済むこともあり、患者にとってもメリットがあります。
- ◆ おくすり手帳を必ず持参してもらうことも重要です。診療を円滑にし、患者の院内滞在時間の短縮につながります。



土曜診察をやめたり、一部の診療科目の診察時間を短縮した病院もありました。病院が将来にもわたって地域に貢献し続けるためにも、地域の患者から理解してもらうことは大事なんですね。

◆◆ 注意 ◆◆

患者の理解を得るためには、職員一人ひとりが、その目的をしっかりと理解していることが重要です。院内で患者への対応などについて勉強会をするなど丁寧に進めましょう！

無料

お困りのことやご不明な点などがございましたらお気軽にご相談ください！
社会保険労務士と医業経営コンサルタントがアドバイスいたします(秘密厳守)。

東京都医療勤務環境改善支援センター随時相談窓口

☎ 03-6272-9345 (平日9時30分から17時30分まで)

詳細はこちらから検索! =>

東京都 勤務環境

検索



勤務環境かいぜんサポートナビ